



学校だより

No. 3 さいたま市立神田小学校
令和6年5月31日発行 TEL (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

広い海へ出てみよう

校長 中村 誠

5月25日、晴天の下で令和6年度の運動会を開催することができました。子ども達が自身自身の力を出し切ろうと一生懸命に取り組んでいた姿は、感動するものがありました。これも、保護者の皆様のご家庭で後押しをしてくださったおかげであると思っております。本当にありがとうございます。運動会実施後のアンケートについても、多くの方からご意見をいただき心より御礼を申し上げます。いただいたご意見を参考にさせていただき、来年度もより良い運動会にしていくよう準備をしております。

さて、さいたま市では、6月は「**いじめ撲滅強化月間**」と位置づけております。いじめは悪いことです。いじめは絶対にやってはいけないことです。私は、いじめは犯罪であると考えています。それくらいに考えないといじめはなくならないと思っているからです。しかし、全国の学校でいじめはなくなりません。なぜなのでしょう。

私は、2006年に朝日新聞に掲載された、さかなクンからいじめられている子へのメッセージがずっと心に残っています。さかなクンは、自身のいじめられた経験をさかなの世界に例え、小さな環境でいじめが起りやすいという「いじめの構図」について語っています。私は、このメッセージを読み、これからの学校教育は、子ども達が生活する環境についても考えていかなくてはならないと強く思いました。子ども達にとって「広い海」となるような環境にすることでいじめがなくなる大きな一歩となるのであれば、すぐにでも取り組むべきです。

しかし、環境を変えるということは容易ではなく時間もかかります。そうしているうちに、いじめで困っている子の大事な時間が奪われてしまいます。一日でも早くいじめがなくなる日が来るようどうすればいいか、さかなクンは、いじめられている人のみならず、いじめている人に対しても「**広い空の下、広い海へ出てみましょう。**」とメッセージを送っています。これは、どのような環境にいても、その環境にとらわれず視野を広げて見てみようということを「広い海へ出てみましょう」と表現したのではないかと考えています。子ども達が視野を広く見ることができれば、いじめられている人が心のよりどころとする場所を見つけることができるし、いじめをする人もいじめなんかしないで、もっと楽しいことを見つけることができるのではないのでしょうか。

学校では、これからもいじめが起こらないような環境を整備するよう努力し、いじめは絶対に許さないということ念頭に置いて、子ども達が様々なことに興味をもち、いじめ（悪口・からかいを含む）よりももっといいことが見つけられるよう指導・支援を行ってまいります。

いじめは、いじめられる人はもちろんのこと、いじめる人やその周りにいる人達の全員を不幸にします。不幸になるとわかっている行為を決して許してはいけません。また、いじめられた人は、その経験を一生忘れることはありません。私は、子ども達にそのような心の傷を負わせたくありません。学校では、いじめに対しては毅然とした対応を行ってまいります。

参考に、さかなクンのメッセージを新聞社及びさかなクン本人より許諾をいただきましたので掲載させていただきます。

保護者の皆様、並びに地域の皆様には、今月も子どもの心に生き続ける、あたたかい言葉かけと変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(いじめられている君へ)さかなクン「広い海へ出てみよう」

中1のとき、吹奏楽部で一緒だった友人に、だれも口をきかなくなったときがありました。いばっていた先輩(せんぱい)が3年になったとたん、無視されたこともありました。突然のことで、わけはわかりませんでした。

でも、さかなの世界と似ていました。たとえばメジナは海の中で仲良く群れて泳いでいます。せまい水槽(すいそう)と一緒に入れたら、1匹を仲間はずれにして攻撃(こうげき)し始めたのです。けがしてかわいそうで、そのさかなを別の水槽に入れました。すると残ったメジナは別の1匹をいじめ始めました。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てきます。いじめっ子を水槽から出しても新たないじめっ子があらわれます。

広い海の中ならこんなことはないのに、小さな世界に閉じこめると、なぜかいじめが始まるのです。同じ場所にすみ、同じエサを食べる、同じ種類同士です。

中学時代のいじめも、小さな部活動でおきました。ぼくは、いじめる子たちに「なんで？」ときけませんでした。でも仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行きました。学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほっとした表情になっていました。話をきいてあげたり、励ましたりできなかったけれど、だれかが隣にいただけで安心できたのかもしれない。

ぼくは変わりものですが、大自然のなか、さかなに夢中になっていたらいやなことも忘れます。大切な友だちができる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んでいたりしても楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのもったいないですよ。広い空の下、広い海へ出てみましょう。

(朝日新聞2006年12月2日掲載) 承諾番号「24-1443」※朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。